

## 共同運営部門：救急診療部

### —関係部署—

診療局、全診療科	事務局
救命救急センター	検査科
臨床研修部	薬剤科
看護局	放射線技術科

### —概要—

りんくう総合医療センターでは、脳卒中や循環器疾患などの専門救急を中心に、1997年の新病院竣工以来積極的に救急患者さんを受け入れてきた。その中心的役割を共同運営部門である救急診療部が担い、時間外救急外来患者数(救急車搬送以外を含む)はピーク時には2万2千人を超えた(2002年)。しかしながらその後、呼吸器内科や消化器内科といった内科系主要診療科の撤退により内科の救急告示を取り下げざるを得ない事態となり、2008年以降時間外救急外来患者数は急激に減少した(図1)。

時を同じくして、大阪府下における救急医療体制は崩壊の危機に瀕しており、特に大阪府南部地域の救急医療体制の立て直しは喫緊の課題であった。2009年度から始まった泉州圏域における地域医療再生計画の一環として、泉州南部地域の救急医療体制について、三次救急医療はこれまで通り泉州救命救急センターが、二次救急医療はりんくう総合医療センターが泉州救命救急センターと協働して中心的役割を担うこととなった。さらに、「高度専門医療と重症救急医療の融合」を目指して、2013年4月をもって、大阪府立泉州救命救急センターは地方独立行政法人りんくう総合医療センターに移管統合することが決定された。

二次救急医療はりんくう総合医療センターが地域の中核病院として総力を挙げて取り組むべきプロジェクトであるが、二次救急のコアになる診療科として2011年に泉州救命のスタッフを動員して救急科が新設された。これにより、診療時間内は救命医師指導下での一年目初期研修医によるプライマリー体制が確立し、確実な救急受け入れと初期研修医の教育体制の充実に繋がった。診療時間外は、2～5年目の初期後期研修医がプライマリー医師を勤め、その上に指導的立場のスタッフ医師が救急責任医師として当直する体制を構築し、各専門救急当番医師や救命センター医師がいつでもコンサルテーションを受ける体制としている。また、救急科の新設により、入院診療科のはっきりしない症例も取りあえずは救急科としてスムーズな入院が可能になり、診療時間外プライマリー医師の負担軽減につながった。

入院病床としては、5階海側病棟に緊急入院や重症患者管理用の病床として救急科・中央管理病床18床を配置している。また、当院では各病棟の空床は、当該診療科以外であっても使用できるフリーアドレス制を採用して、病床の有効利用に努めている。

これらの対策を講じた結果、減少していた救急外来患者数は救急搬送患者を中心に2013年度より再上昇に転じ(図1、表1)、2014年度には救急搬送受け入れ患者数が3,700件を超えて増加した。泉州救命の三次搬送患者数と合計すると5,500件を超える救急車を受け入れている。救急搬送依頼に対する応需率も、診療時間帯は95%を超えてほぼ全例の受け入れを行っており、診療時間外においても恒常的に85%を超える応需率を維持している。また、2015年度には、感染症患者の対応を考慮して、救急外来に陰圧室を整備した(写真)。

表2～4に、2015年度のwalk in および救急車受け入れ患者数、救急隊別搬送患者数、診療科別受け入れ患者数を示した。

### —実績—

図1、救急搬送数と入院数の推移(時間外のみ)

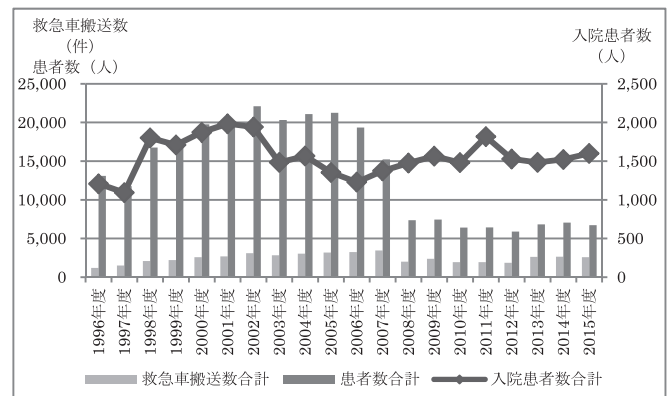


表1、救急外来患者数(診療時間内外合計)

	患者数		入院数		救急搬送数	
	合計	月平均	合計	月平均	合計	月平均
2008年度	8,703	725	1,815	151	2,706	226
2009年度	8,930	744	1,966	164	3,224	269
2010年度	7,749	646	1,880	157	2,696	225
*2011年度	8,133	678	2,338	195	2,813	234
2012年度	7,652	638	1,971	164	2,691	224
2013年度	8,909	742	2,036	170	3,663	305
2014年度	9,306	776	2,123	177	3,716	310
2015年度	9,024	752	2,231	186	3,622	302

\*2011年度下半期は、泉州救命改修工事のため三次救急患者もりんくう救急外来で受け入れ。

表2、救急外来 Walk In／救急車別 受診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Walk In	375	529	372	493	456	489	446	460	491	456	439	396	5,402
救急車	265	303	308	292	324	306	280	294	293	315	328	314	3,622
合計	640	832	680	785	780	795	726	754	784	771	767	710	9,024

表3、救急外来救急隊別救急搬送数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉佐野	141	166	136	146	166	137	132	146	140	157	162	152	1,781
泉南	38	55	51	34	47	69	44	50	51	37	47	57	580
阪南	21	29	28	20	24	28	30	26	29	28	26	21	310
熊取	24	11	24	20	27	17	21	16	23	28	39	24	274
田尻	7	8	25	33	31	22	15	20	26	18	26	24	255
岬	1	0	4	3	3	1	6	4	4	4	1	3	34
貝塚	16	17	16	15	16	14	14	17	8	24	8	15	180
岸和田	3	5	9	12	3	7	7	6	5	10	6	8	81
和泉	4	3	3	4	3	3	4	1	3	2	4	1	35
泉大津	2	2	3	1	0	0	1	4	0	0	1	2	16
忠岡	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	4
堺	2	3	5	0	0	3	2	1	0	3	4	2	25
高石	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4
大阪府内	0	2	2	1	0	1	0	1	1	1	3	2	14
大阪府外	0	1	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	5
不明	5	1	2	2	1	2	3	1	2	3	1	1	24
合計	265	303	308	292	324	306	280	294	293	315	328	314	3,622

表4、救急外来診療科別受診件数

(初診以外、点滴、ガーゼ交換等を含む)

科分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急科	363	496	439	499	541	500	423	448	458	469	492	468	5,596
産婦人科	118	135	98	126	105	125	93	105	109	118	86	81	1,299
小児科	51	55	55	63	50	56	72	67	48	43	74	48	682
循環器科系	40	48	39	28	35	31	38	39	55	53	43	58	507
耳鼻科	27	45	19	26	16	22	31	31	35	25	28	18	323
脳外科	23	28	19	22	19	28	24	25	32	20	24	14	278
外科系	10	13	8	10	8	21	30	31	37	25	12	15	220
内科系	6	10	3	4	4	8	6	5	7	12	4	6	75
歯科口腔外科	1	2	0	6	2	3	8	2	2	3	2	1	32
整形外科	1	0	0	1	0	1	1	1	1	3	2	1	12
合計	640	832	680	785	780	795	726	754	784	771	767	710	9,024

### —今年度の成果と反省点—

コンスタントに救急搬送患者の受入れができ、入院率および入院患者数も増加している。診療時間内の初期研修体制も充実し、1年目の初期研修医には良い研修ができたこと好評であった。入院後の救急科と専門診療科間のコミュニケーショントラブルが時々見られ、より確実な救急受け入れを行うためには、各診療科間の協力体制の更なる強化が必要である。

### —来年度への抱負—

今後は内科系診療科の診療体制の充実と、専門診療科間の協力体制の強化により、一層確実な救急患者の受け入れ体制の確立に努め、地域に信頼される医療機関を目指したい。



【陰圧室】



【陰圧装置】